

# キラリ 熱中時間

深谷市にゆかりがあり、市内外で活躍する個人や団体を紹介します。

『栄一翁かるた』の絵札を手掛ける



イラストレーター  
柿澤オサミさん

## 栄一翁の生涯を イラストでつづる

48枚の絵札につづられた渋沢栄一翁の生涯。先日発売された『栄一翁かるた』の絵札を描いたのが市内在住のイラストレーター柿澤オサミさんです。

小学校1年生の時に描いた絵が賞に入選したことがイラストレーターになったきっかけだと言う柿澤さん。これまで市内外を問わずさまざまなイラストを手掛けてきました。

「これまでもポスターなどで栄一翁のイラストを描いたことはありましたが、今回は生涯を描くということで身が引き締まる思いで描きました。」と真剣な面持ちで話してくれた柿澤さん。

今や郷土の偉人というだけでなく、日本中で注目を集める栄一

翁ということで自分らしいタッチにしつつ、人物などそれぞれの特徴を出したイラストを描くのに苦労したと話す柿澤さんに、特に難しかったイラストについて伺うと、『し』の札ですね。『士魂商才』をイラストで表現しなければいけなかったため、いろいろと考えて描きました。ただ、難しかった分印象に残っています。」と話してくれました。

柿澤さんは『子どものうちに郷土の偉人について遊びながら学んで欲しい。』という思いから9月には母校である岡部小学校に今回のかるたを寄贈。現在は自分の描きたいイラストを描きながら、3回目の個展開催を目標に精力的に活動を続けています。



▲『栄一翁かるた』のパッケージ。柿澤さんの一番のお気に入りだそうです。

# L・フォルテ

男女共同参画情報コーナー

ともに認め合い 支え合う 元気と笑顔で参画するまち ふかや  
個人権政策課 ☎574 - 6643

L・フォルテは、深谷市男女共同参画推進センターの愛称です。このコーナーでは、男女共同参画に関する情報を皆さんに紹介します。

## 『誰か』のこと じゃない。～性の多様性への理解を深めよう～ PART II

### ■『カミングアウト』と『アウトティング』

カミングアウトとは、これまで公にしていなかった性的指向や性自認を本人が他人に話したり打ち明けたりすることです。性的少数者の多くは、『家族にはカミングアウトしているが、職場では絶対に隠しておきたい。』(またはその逆)とか、『〇〇さんにだけ打ち明けよう』など、自分の中でゾーニング(※1)をしながら、カミングアウトする範囲をコントロールしています。

アウトティングとは、公にしていなかった性的指向や性自認を、当事者本人の了解を得ずに他者に暴露することです。アウトティングは、たとえ当事者を思っている行動であっても人権の侵害です。アウトティングにより、当事者と家族や同僚、友人との関係が断絶するおそれもあります。さらに、精神的に追い詰められ自殺に至るケースも実際にあります。生命の危険など、緊急性がある場合を除き、アウトティングは絶対に行ってはいけません。

カミングアウトや相談を受けた場合には、今まで誰に話しているのか、また誰に話してよいかを確認し、保護者や家族に相談する必要が生じた場合でも、本人の了承を得てから伝えましょう。また、対応を考える際に、専門家などと情報を共有する必要がある場合でも、その必要性や誰に話してよいかを本人に事前に話し、必ず承諾を得る必要があります。

当事者は、あなたを信頼して、勇気を振り絞って話をしている可能性が高いです。まずは、『話してくれてありがとう』と伝えます。そのうえで、その人が抱えている不安や悩みを聞く姿勢を示すことが大切です。

(※1) ゾーニングとは、『どの範囲の人にまでカミングアウトするのか』という線引きのことを言います。

ふっかちゃんの日常から  
深谷が見えてくる

## ふっか 散歩

⑧ 渋沢栄一翁の銅像を巡る⑤



◀この銅像は、『栄一翁の顕彰と偉大な功績』を伝えるために、建てられたんだって!

栄一さんが大切にしていた『忠恕のこころ・まごころと思いやり』という考えはみんなもよく知っているよね!



▲銅像をアップで撮ってみたよ!とてもうれしい顔つきだね。銅像のある市民ホールは土・日曜日、祝日で午前8時～午後8時まで入れるから、みんなも見に来てね!

ふっかちゃんの  
つぶやき  
市役所の各窓口にて  
ティプロモーション  
ロゴマークのシール  
を貼ったよ!来庁した  
ときはぜひ見てね  
~!Y(o0ω0o)Y



ふっかちゃんも普段過ごしている市役所本庁舎には、西の玄関を入ると銅像が2つあるんだよ!ふっかちゃんから見て、右手側にあるのが栄一さんの銅像で左手側にあるのが畠山重忠さん。重忠さんはまた今度紹介するね!



## 心の広場

桜ヶ丘小3年(現4年)  
橋本 萌花さん



### 友だちが教えてくれたこと

わたしは、三年生で、『じんけん』という言葉を学びました。その時、二年生のできごとを思い出しました。

二年生の時のわたしは、とくべつ仲がいいという友だちがあまりなく、二年生の一学期まではいつも一人ぼっちでした。休み時間に、わたしが一人で遊んでいると、友だちどうして遊んでいる子や、何人かで話している子たちがいました。わたしは、ちょっとさみしく思いました。そんな時、同じクラスの子が名前をちゃんづけでよんでくれて、「遊ぼうよ。」

と、さそってくれました。その時、だれにでもやさしくせつしてくれて、言われてうれしい言葉をすぐに言えてすごいなと、思いました。わたしは、「うん、いいよ。」

と、言いました。はじめて話した子だったけれど話はどうもすみました。わたしは、この子と仲よくなって、今では友だちです。このできごとは、わたしをともしあわせな気持ちにしてくれました。

人けんとは、『人がしあわせにくらすけんり』です。人がしあわせにくらすとは、自分もしあわせにくらすということであり、まわりのみんなもしあわせにくらすということです。声をかけてくれた友だちは、わたしの人けんを大切にしてくれていたことに気づきました。

もし、自分だけしあわせでも、友だちが自分のせいで、いやな気持ちだと人の気持ちを考えられていないということになり、みんながしあわせではないと思います。仲間はすれやいじめは人の心をこわしてしまいます。これは、人けんが守られていないということです。

人けんを守るためには、友だちがしてくれたように相手の気持ちを考えて、行動することが大切だと思います。何かしてもらったら「ありがとう。」いやなことをしてしまったら「ごめんなさい。」を言うなどの小さなつみ重ねが友だちを大切にすることにつながります。してもらったらうれしいことや、されていやなことはなんだろうと、考えながら行動していきたいと思います。